



下角町会総合優勝

ミニバレー競技



シャッフルボード競技



梓川地区スポーツ祭 2017

7月9日(日)に梓川地区スポーツ祭2017が開催され、梓川体育館では囲碁ボールとシャッフルボード競技を、梓川小学校体育館ではミニバレー競技が行われました。



囲碁ボール競技



● 競技結果 ●

- 総合 ●
- 優勝 下角
- 準優勝 杏
- 第三位 上立田 北々条
- シャッフルボード ●
- 優勝 上角
- 準優勝 杏
- 第三位 北々条
- 囲碁ボール ●
- 優勝 上立田
- 準優勝 下角
- 第三位 南大妻
- ミニバレー ●
- 優勝 下角
- 準優勝 北大妻
- 第三位 南大妻

5月23日(火)に梓川公民館と梓川地区まちづくり協議会の共催により、富山県薬用植物指導センターの視察研修を行いました。今回視察した薬用植物指導センターは、富山県薬事研究所の付設機関として、薬用植物の栽培技術の確立や、栽培普及指導等につとめている全国の都道府県



今回視察した薬用植物指導センターは、富山県薬事研究所の付設機関として、薬用植物の栽培技術の確立や、栽培普及指導等につとめている全国の都道府県

『芍薬』の原産地化に向けて

で唯一の薬事に関する研究

5月28日(日)に地区の大人も子供も集まって「春のごみゼロ運動」が行われました。自分たちの暮らす地域をごみゼロという視点で歩くことで、普段は見落としていた場所に草が伸び放題になった荒れた場所を綺麗にすることで、防犯上も地域の安全性が向上し



ごみゼロ運動を通して、地域の環境美化のみならず、安全性や絆が深まる良い機会になっています。

『ごみゼロ』を目指すまちづくり

ます。また、活動中の「い

5月28日(日)に地区の大人も子供も集まって「春のごみゼロ運動」が行われました。自分たちの暮らす地域をごみゼロという視点で歩くことで、普段は見落としていた場所に草が伸び放題になった荒れた場所を綺麗にすることで、防犯上も地域の安全性が向上し

市消防ポンプ操法大会 第37分団 準優勝!

6月4日(日)に野麦峠スキー場駐車場において、平成29年度松本市消防ポンプ操法大会が開催されました。この大会は、日々の訓練で培われた規律と技を競い合い、技術の向上のみならず、災害対応能力の向上や、現場での安全活動にも繋がっています。

梓川地区からは、ポンプ車操法の部に第37分団が出場し、これまで積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮し、準優勝という輝かしい成績を収めました。



操法の部が始まり、第37分団はそのトッポバッテリーとして競技を開始しました。

ポンプ車操法は、団員がポンプ車から消防ホースを延ばし、火を模した的に向けて放水します。動作、機器の取り扱い、タイム等を競い、数名の審査員によって審査されます。

今大会で準優勝に輝いた第37分団は、7月2日(日)に安曇野市で開催された松本消防協会ポンプ操法大会に、松本市の代表として出場しました。県大会への出場は逃した



ものの、梓川地区、松本市全体の代表として奮闘しました。

仲間と協力勝利をつかめずせむし子 梓川小学校運動会

今行われた

初夏すがすがしい季節、6月3日(土)に第45回梓川小学校運動会が開催されました。

梓川小学校は松本市の小学校の中で一番の児童数を誇り、新年度に入って間もないにも関わらず、子供たちも先生方も素晴らしい運動会を披露してくれ



全ての種目がテーマを象徴としており、その中でも6年生による組体操「にじいろ」では、盛大な拍手に包まれ、演技した6年生の表情からは、逞しさを感じ取る事ができました。また、1年生による玉入れでは、高いカゴ目掛けて玉を投げ入れ、その真剣な表情からは、成長の様子を伺うことができました。全児童が一丸となつて勝利を目指して頑張った今年の運動会は、赤組44・白組44の引き分けとなりました。

人権について考える 梓川地区 人権視察研修

5月30日(火)に富山県にあるイタイイタイ病資料館を視察しました。

イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で発生した日本四大公害病の一つです。明治時代後半から、神通川の水を生活用水として使っていた人々の中に、全身が痛くなったり、骨がもろくなるという、原因不明の病気が見られるようになり、患者の方がそのあまりの痛さに「イタイイタイ」と泣き叫ぶところから病名がつけられました。原因不明のためこの地区の人は、結婚をはじめ様々な差別を受けました。多くの医師や研究者が原因究明を始め、この原因が神通川上流の神岡鉱業所の排水に含まれるカドミウムであると判明したのは、昭和40年代初めのことです。その後、住民は団結し裁判を起し、昭和46年に勝訴しますが、今もなお、患者救済や健康調査が行われています。公害病の恐ろしさ、原因克服の経過を学ぶことにより、環境と健康の大切さを確認することができました。

雑記帳



最近、スポーツ界で十代の選手の活躍が目覚ましい。5月から6月にかけてドイツで行われた世界卓球選手権で日本は5個のメダルを獲得し、その内2個を十代の選手が獲得した。1個は女子シングルの平野美宇選手の銅メダル。もう1個は、女子ダブルスの伊藤美誠・早田ひな両選手による銅メダル。三人とも平成12年生まれの高校生である。また、平成15年生まれの中学生、張本智和選手は、男子シングルスでリオデジャネイロ五輪の銅メダリストである水谷隼選手を破って話題をさらい、史上最年少で8強入りを果たした。6月に行われた日本陸上選手権では、18歳のサニブラウン・アブデル・ハキーム選手が100m走と200m走でそれぞれ自己ベストで優勝した。卓球・陸上ともに3年後の東京五輪が楽しみな選手たちだ。スポーツだけではない。将棋では、平成14年生まれの藤井聡太四段が公式戦29連勝を達成し、単独1位になったのは記憶に新しい。自らの連勝記録を更新する日が訪れるかもしれない。